

県立妙義青少年自然の家の施設・設備の利活用に関する サウンディング型市場調査の結果概要について

令和3年11月5日
生涯学習課

妙義青少年自然の家の施設廃止後の利活用、民間事業者等による施設の運営、その他の活用方法等の可能性を検討するため、事業者・団体等の皆様から広く意見や提案をお聞きするサウンディング型市場調査を実施しました。

本調査の結果を取りまとめましたので、その概要を、以下の通り公表します。

1 公表方法・時期

- (1) 方法 群馬県のホームページにて概要を公表
- (2) 時期 令和3年11月5日(金)

2 公表内容

(1) 実施の概要

- ・事前説明会
開催日：令和3年8月10日(火)
参加者：3者
- ・個別対話(サウンディング)
開催日：令和3年9月6日(月)、9月8日(水)
参加者：3者

(2) 対話結果の概要

対話項目	主な提案内容
1. 施設・設備の利活用方法について	<p>○「アーティストレジデンス」として活用する。 宿泊棟をレジデンスとして、アーティスト等が長期滞在しながら制作できる場とする。屋外スペースや体育館は、制作した作品を初めて発表する場として、また様々なアート・音楽イベント等が実施できる。 豊かな自然を用いた妙義ならではの体験と、質の高い飲食を提供することで、ターゲット層を絞ったイベントを実施し、一定水準の運営を保つ。 イベント参加者等の宿泊場所としても活用が可能であり、そのほか、地元の人・子どもたちとの交流の場としても活用できる。</p> <p>○「親子チャレンジ学校」と「妙義地域の活性化」をプラスした形で活用する。 「親子チャレンジ学校」では、施設と周辺環境を有効利用し、生き方を学ぶ講義、働き方の多様性を知る講演、自然体験のワークショップなどのプログラムを提供する。多様な生き</p>

	<p>方をしている人々を講師とし、参加者が楽しみながら様々なことに挑戦できる場を提供する。固定概念にとらわれない生き方を学ぶ場を作ること、共にチャレンジする仲間が集うコミュニティを作ることなどを目的とする。</p> <p>また、コロナ禍に対応した観光地の開発や周辺の空き家や耕作放棄地の活用について、地元の方と連携しながら作り上げていき、この場所を妙義地域の活性化の拠点として活用する。</p> <p>○従来の教育観にとらわれない、豊かな教育環境を備えた「オルタナティブスクール」として活用をする。</p> <p>群馬の教育の一つのランドマークとなるような「オルタナティブスクール」を開校し、妙義の豊かな自然の中で、様々な体験活動を通して基礎学力も身に着けられる教育環境を整備する。良い教育を行っているところには人が集まるので、移住希望者も増加し、それが富岡市の活性化にもつながる。</p> <p>○国内の地域留学の拠点として活用する。</p> <p>自然が身近にない地域に住む子どもや都内在住の子どもを対象に、夏休み等の長期の休みを利用した宿泊型の教育プログラムや、親子で参加できるプログラムを提供する。</p> <p>アントレプレナーシップ教育のプログラム(起業家教育)や地域課題解決型のフィールドワーク等を実施することにより、子どもだけでなく、社員研修プログラム等の提供も想定できる。</p>
<p>2. 売却の可能性について</p>	<p>○金額次第ではあるが、十分可能であると考える。</p> <p>現状のままであることが、自由に改修できるメリットと捉えることもできると思う。</p> <p>○購入の意向はあるが、売却金額や現状の施設の状況等を詳しく検討する必要がある。</p> <p>○個人ではなく、関係団体と連携した形での購入ということも考えられる。</p> <p>○資金面での壁はあるが、売却は可能と考える。出資・協力いただける企業等のパートナーがあるとよい。</p>

3 今後について

提案いただいたアイデアや意見を参考に、妙義青少年自然の家の施設廃止後の利活用方法等について、引き続き検討を進めます。